

40年の時を経て

吹田市立第一中学校第二十八回生
(昭和51年度卒業) 同窓会に思う
田邊 元久 (山口県在住)

平成27年11月22日、卒業以来40年を経て同窓会が開催された。50台後半となった面々が15の小僧・小娘に戻り、懐かしいひと時を過ごすことができた。千里山を離れ、二度と会うことがないであろうと、いつの間にか記憶から消えかけていた者との再会は、この上なく嬉しいはずであるものが、なぜか正直少々てれくさく、恥ずかしさの方が勝っていたのは私だけではないはずであろう。

話は一昨年に戻る。私の元に一通のファックスが届き、送信者に懐かしい名前が記載されていた。

内容はいたって謙虚、「田邊さんでしょうか：：間違いなら申し訳ありません：：。」ふと何かの前触れではないかとも感じ取れた。その前触れの通り、卒業生大阪在住者数名の集まりの中で話が弾み、同窓会開催企画がスタートしたとその後々耳にすることとなる。最初は本当に出来るのであろうかとも思ったが、発起人たち(後の幹事)の努力により盛大な会の実現

となったのである。すでに当時の卒業アルバムさえどこに行ったのか分からない者もいたであろう程の年月が過ぎ、その中から消息・所在を確かめる作業は容易ではなかったはずである。仕事に追われる者、親の介護に翻弄される者、それぞれのプライベートを持ちながら、日々生活している姿を思いつつ、40年の時をタイムスリップさせてくれたことに頭の下がる思いがした。生徒だけでなく、恩師との再会もこの上なく懐かしさがこみあげてきた。年齢・体調を考え細かな配慮が施された企画内容にも、幹事の思いやりと優しさが感じ取れたものである。

幹事との連絡のやり取りの中で、何か力になれることはないかと思ひ、頭をよぎったのが母校への訪問である。大学在籍中、中学時代の恩師より部活のアシスタントの依頼を受けた。時間の許す限り一中へも足を運んでいた中で教職への魅力を感じ、今の職(高校教員)を得るきっかけを頂けた思いから、学び舎への思いも人一倍強いことも重なり、是非実現させようと幹事に学校訪問の企画を提案した。その後のやり取りはトントン拍子に進み、幹事は当日までの準備に追われるとのことから、私にこの企画を一任ということに訪問が決定となった。このことも含め半年前から「ワクワク気分」となり、一足先に中学時代に戻ったよう

な気分、何か落ち着かない日々が続くこととなった。早速、現職校長に連絡を取り快諾を得られたことから、参加希望者を募ることとなった。私の元に次々に連絡が入り、参加予定者は15名となったのである。

先ず吹田一中を訪問

前日に夜行バスで山口を出発し、当日の朝、大阪入りした。早速、阪急電車で関大前まで移動し、徒歩で千里山界隈を一回りしてみた。あったはずの建物がなくなり、また大きなマンションが建っていたり、40年前とは相当様変わりしていた。最も変わったのは千里山駅から千二小方面に抜ける辺りで、ニュータウンのアパート群(霧が丘、星が丘周辺)が大きく整備され、同時に千里山駅ホームの上に跨線橋(新しい道)もでき、車の流れも大きく様変わりしていたことだ。昨年8月発行の会誌「千里山」にもカラー写真で紹介されていたが、実際に足を運ぶとその様変わりした姿には、全く別の場所に来たように錯覚した程であった。第一噴水から一中に向かう道は直線のアップダウンが当時のままで、一中が近づくにつれ鼓動が速くなるように感じたものだ。当日は日曜日であるということから校門は施錠されており、しばらく周りをうろついていると一台のバイクが校門前で停車し門が開けられる姿が目に入った。実は休日というのに校長先生自ら出校され、

我々を出迎える準備をしていたことは恐縮の極みである。校長室で談話していると、数名の卒業生らしい顔が見えだした。そこには40年の月日を経た懐かしい顔が並んでいた。卒業アルバムを抱え、当時とほとんど変わらない校舎を時間の許す限り回らせていただいた。すべての教室に鍵がかかっていたが、7クラスのHRすべてを見て回り、出席者全員着席し記念写真を撮った。ペランダは耐震工事で若干狭くなっていたが、そこからの運動場の眺めは当時のままであった。そしてその後方には「ルネ千里山」が当時のままの姿で我々を迎えてくれていた。何とも言葉にならない思いを感じ、思わずしばらくたたずんでしまった。

当時の校舎で大きく変わったのは体育館とプールの改築されたことであろう。体育館の下にあったはずのプールは体育館屋上に設けられてあった。警備員さんのご厚意で全員が屋上に上り、冬を迎えようとするプールからは大阪市内がかすかに見えていた。40年前の校舎が当時の形をほぼ留めて残っていることは、我々にとってはとてつもなくありがたく嬉しいかぎりである。最後に校長先生と校門横の「少年」の像(恩師の原田繁昭先生の作品)をバックに写真を撮った。後で気づいたことであるが、当時背丈の低かったフェニックスの樹は見事に大きく成長していた。そして今も

一中生たちを出迎えてくれているかと思うと、改めてこの企画を進めて本当によかったと感じた。都合で参加できなかった者も多かったであろうが、いつまでもその姿を残してくれていることに感謝しなければとつくづく感じたものである。

約1時間の滞在の後、緑地公園駅まで歩いて移動した。途中で千三小の前を通ると、当日は大阪府知事選挙と重なったことから、千三の校門もくぐる事が出来た。緑地公園駅周辺も大きく様変わりしていた。我々が一中在学中に駅が開設され、地下に駅舎があったことから、当時は何もない整地された空地が整然と広がり、なぜか馬糞のにおいが漂っていたのを思い出した。かつて千里山界限は竹林が多く、当時はあちこちにその名残があったが、今は当時を知る人も少なくなつたのかと思うと少々寂しい思いもする。年配の方々からすると、現在の変貌ぶりには目を奪われることばかりではなからうか。

同窓会会場にて

11時丁度、今回の同窓会会場のホテルに到着した。ウキウキしながらホテルのエスカレーターを上り、受付が見えてきた。会の準備を進めてくれた幹事たちが皆を迎えてくれ、ロビーではあちこちで歓声が上がり、

舎の姿に思わず涙を流した者もいたとのことであった。私もその一人であったのかもしれない。

3時間という、長いようで本当に短かった会はずりなく終了の時を迎えようとしていた。最後には全員で校歌と一中賛歌を合唱し、記念写真を撮ってお開きとなった。その後、場所を移して二次会、三次会・・・。時のたつのも忘れて話しは尽きなかった。季節柄、日が暮れるのも早く、会場のホテルを出たときはネオンがまぶしかった。つまり、すでにその程度の記憶しか残っていないのである。40年の月日は長いようであるが、この日に限って言えば本当に「アツという間」であり、いつの間にか「忘却の極致」と化してしまった私の記憶の中に、11月22日は「つい先日の出来事」がよみがえった一瞬であり、懐かしい出会いは、またいつか必ず出会えるであろう「はじまりの日」であったのかもしれない。いや、きっとそうに違いない。月日は経ち、あれからすでに半年が過ぎた。「千里山」の原稿依頼を受け、ゆつくりと記憶をひも解きながら文字をつづっている。思えばその日を境に、一中卒業生同期の「絆」は確実に太く強くなった。さて、次はいつどこで出会えるものか。どこかこの空の下でそれぞれの人生を謳歌し、日々生活を送っている者がいると思うと、それこそ私にとっては「活力の源」

いよいよボルテージは頂点を迎えようとしていた。クラスごとに受付が設けられ、ふと後ろから声をかけられた。「だれや?」と思いつつ、「おれや・・・」、「わたしやん・・・」の一言で笑顔の花があちこちで満開になってきた。そして正にその顔は、しつかり15の「ほのかな白髪としわ」に飾られた鼻垂れ坊主・小娘に戻っていた。

会は11時30分に始まった。受付時にくじ引きでテーブルが決められ、司会者の飾らない進行から、和気あいあいのムードで進んでいった。はじめに恩師の先生方にご挨拶をいただいた。会場中央に設けられたスクリーンには卒業アルバムに映っている当時の先生方のお顔が大きく映し出された。田淵先生(当時20代のバリバリの体育教員)の「当時のご無礼の数々、お許しください」と切り出された言葉に会場は爆笑の渦に巻き込まれた。そして当時のままの元気をばらまいておられたのは大西先生。「イオンはく」、「服部緑地のアベツクの法則」等々、ついには名物の「バケツそうめん」も含め、懐かしい話題は尽きない。その後、卒業生の挨拶がクラスごとに始まり、ここでもアルバムの顔写真が大きく映し出され、あちこちで歓声と悲鳴に近い声が響き渡った。会の中程になると、一中訪問の様子がスライドで紹介された。企画を任された私とその時の様子を紹介したのであるが、懐かしい学び

以外、何物でもない。確実に順調に老い始めている心と身体に今一度「鞭を打ち込んだ・・・」。

そんな嬉しく懐かしい出会いが実を結んだことに、感謝、感激、感電である。平成28年6月記

吹田市立第一中学校第28回生(昭和51年卒業)同窓会

日時 平成27年11月22日(日)11:30～

会場 新大阪江坂東急REIホテル

出席者 恩師 7名 卒業生 87名

ご出席いただいた恩師のお名前

上津米和 先生 大西莊六 先生 又川紀子 先生

原田繁昭 先生 田淵隆志 先生 続池美津子 先生

萬代伸子 先生 以上

本稿は当会会員伊藤千恵さん(千三小二回・吹田一中二十八回)を通してご寄稿頂きました。当会より「千里山会」の宣伝と新入会員獲得のため、会誌18号を会場希望者に配布してもらい、何名かの入会希望を頂いております。今年11月には小生(吹田一中八回)も卒業六十周年記念同窓会に出席して、本稿と同様の感激を味わいたいと願っております。編集部奥田記

同窓会会場



受付にて幹事さん一同



会場風景



大西先生ご挨拶



全員で記念写真

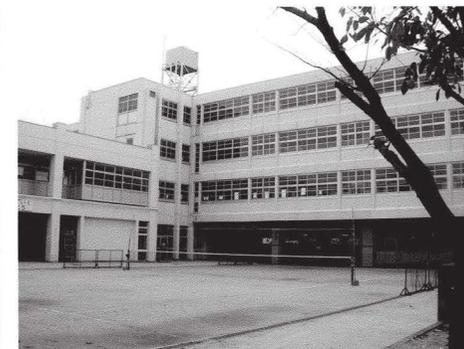
吹田一中を訪ねて



校門 休日の朝で施錠してありました



3年教室前の廊下に一中訪問団集結



中庭のテニスコートから見た校舎



校長先生を交えての記念撮影